

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルーテ		
事業所名	グループホームよろこび しあわせ館(B棟)		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和6年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から7年目を迎え4月に新体制としてスタートしました。 今までの介護をもっと心のこもったものにしていくため職員間で話し合い業務の見直しを行いました。 2ユニットが毎月の目標をたて日々の業務に取り組んでいます。 多くの地域の皆様にグループホームよろこびを知っていただくため認知症カフェを開催する予定です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩泉町西部の国道沿いの高台に位置し、周囲を緑の山々に囲まれた自然環境豊かな場所に立地している。2ユニットの事業所は、開所から7年目を経過した。昨年4月に理念を見直し、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めている。ほとんどの利用者が協力医療機関である済生会岩泉病院から月2回の訪問診療を受診しており、看護師職員の存在とともに安心感を得ている。町内の特養や老健施設との連携もよくとれ、重度化した場合などに住み替えが迅速に進むように支援している。食事は、食材の購入から献立・調理まで職員が担い、地元産の野菜、果物をふんだんに利用し、利用者の意向を聞きながら提供している。町とは、地域包括支援センターとの定期的な情報交換や、「ぴーちゃんねつ」と呼ばれる電話型のIP端末を設置し、町からお知らせや避難指示など配信されているほか、この端末を利用して利用者と家族がテレビ画面で会話を楽しんでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践できるよう努力しています。朝礼で皆で声を出して読んでいる。理念の内容をもとに施設内研修を行った。	令和5年4月に職員の意見を反映して事業所の理念を「笑顔で相手の気持ちに寄り添い思いやりの心」に見直している。理念を共有・意識づけするため朝礼で唱和し、掲示したり研修を実施しており、各ユニットは毎月目標を作成しながら介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ後はなかなか地域との関わりが持たなくなりましたが行事で参加していただくことが出来ました。	地域の自治会に加入しており、地区10班の回覧板で事業所の広報を回覧している。地域の催し物を見学し、町主催の認知症カフェにも参加している。令和6年11月には、事業所主催の認知症カフェを開催する予定としている。	地域に溶け込むように、地域との関わりを増やすように活動を促進したいとしている。事業所が日常的に地域の方々と交流していくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報などを配布し事業所の様子をお伝えし認知症の方がについて理解していただけるようにしている。 11月に認知症カフェを開催する予定。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いた地域の方の意見を参考にしている。 家族の方からの意見を直接行政に伝えることができ改善につながった。(介護券)	委員は、3地区の自治会長、民生委員4名、消防分団長2名、家族代表、地域包括職員の計10名となっている。令和5年7月から集合での会議を再開し、運営状況や今後の活動報告、意見交換を行っている。家族の意見を行政に伝え介護券の利用改善に繋がっており、意見を参考に11月には認知症カフェを事業所主催で開催する予定となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取り協力関係を築くようにしている。 役場に週一回、担当者が行き(電話以外にも)情報交換や相談をしている。	町独自の『ピーちゃんねっと(TV電話)事業』を活用し、連絡を取っている。TV電話には町や公共施設からのお知らせや災害情報が配信される。さらに、週1回、担当者が役場に出向いて情報交換や相談を行っている。利用者の支援に関する相談では、助言を受けて医療機関の協力を得た事例もある。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に社内研修や委員会で話し合い取り組んでいる。利用者が、散歩したい、草取りしたい、外に出たい等の希望や訴えを尊重し、行動を制限しないようにしている。	玄関は防犯のため、18時30分から翌朝6時まで施錠し、日中は施錠していない。ユニット会議で身体拘束禁止の研修を実施しており、令和5年度には、声掛けでスピーチロックとなる「だめ」という言葉が多く聞こえたため、「言い換えの言葉」の資料を活用し改善に取り組んでいる。変化が見られない職員には、管理者などのリーダー職員が個別で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げ、日常的に注意していかなければならないことを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度は施設内研修を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族にしっかりと説明し理解してもらっている。不明な点や疑問なことがある場合はその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙を定期的に配布し意見を聞くようにしている。	家族が面会で来所した際やアンケート用紙を配布して意見を聞いている。その中には請求書の送付をメールにしてほしいといった要望があり改めている。各ユニットのリーダーやスタッフが聞いた内容は、管理者やケアマネジャーに伝わる仕組みとなっており、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで直接意見を聞いたり、リーダーを通しての相談や意見を反映させることが出来ている。	毎朝の朝礼や毎月のユニット会議で、管理者が職員の意見や提案を聞き、職員と話し合いながら支援の方法を調整している。職員の提案に基づき、タオルウォーマーの購入やテラスの設置も行われている。また、年に2回は社長との個別面談が行われ、各職員の要望を把握している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意見や思いを聞けるように努めている。有給休暇や特別休暇、時間外、資格取得に関することなど、不安なことは管理者が話を聞き代表者に伝え相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加、資格取得を推奨し支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や日々の業務の中で連絡、相談を行いサービスの向上に努めている。 春には他施設を訪問し、入浴状況等、業務面で参考にさせてもらい実行している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が入居してから落ち着かれるまでは特に、不安なことや要望等を会話や関わりの中からも聞き取り、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネが耳を傾けながら関係づくりに努めている。 入居後は早めに本人の様子を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてからの本人の状態を確認しながら職員間で情報共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること得意なことで役割を持ってもらい、いきいきと生活できるよう努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族が多いため写真入りのお便りを毎月送って現状を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯に電話があれば会話して頂き隣の棟から来られた方は時々また隣の棟へ行き顔を見て会話を楽しまれる。 友人、知人との面会やなじみの美容院に行くなど行っている。	入居前に事前面接を行い、本人や家族から地域での関係性なども含めて情報を収集している。家族が来訪した際には、一緒にお墓参りに行ったり、自宅外泊をする方もいる。友人や知人とは、踊りの会やテレビ電話で交流している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席を決めてはいるが、本人の意思を尊重し自由に交流されている。 本人をしっかり知ることを努め日々の生活の中でも望んでいること、不安なことを確認しながら孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等での相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に合わせその都度対応するように努めている。家族に電話したい、顔を見たい、お菓子を送ってもらいたい等の思いに対応している。	普段のかかわりの中で声をかけ、意向の把握に努めている。言葉や表情から意向を推し量り、それとなく確認するようにしている。意思疎通が難しい方には、笑顔や不快な反応などを観察しながら対応し、家族や関係者からも情報を得るように心がけている。	利用者一人一人の思いや暮らし方の希望、意向に関心をはらい、全職員がその把握に努めることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス事業所からの情報や本人や家族との会話等からも把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、朝礼等でその都度情報を共有し、月一回のミーティングでも変化等の把握に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや日々の介護の中で本人の現状について気づきや改善点を話し合い計画書を作成している。	介護計画は計画作成担当者が作成し、カンファレンスなどで全職員が確認した後、修正を加えたうえで家族の承認を得ている。計画には本人及び家族の意向を反映しており、モニタリングは3か月ごとに行い、介護度の更新や変化に応じても見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中から心身の変化を報告し合い計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食いたいもの、美容院への外出、歯科治療の希望があり、その都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に沿って、美容院に来ていただいたり、出向いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の他に近所の歯科治療や緊急時には付き添いを行い受診できるよう努めている。	利用者全員が協力医療機関である済生会岩泉病院から月2回の訪問診療を受診しており、職員の負担も軽減されている。薬剤師が訪問診療のたびに訪れ、服薬の説明をしている。歯科は近くの歯科医院に通院している。精神科、眼科、整形外科などに通院している利用者は今のところいない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡相談を行い、変化や気づきを早急に伝え、相談し必要な受診ができることで安心して健康維持が出来るよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供を行い、早期に退院できるよう、病院と相談している。日常的にも相談等を通して顔の見える関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、当施設として出来ることを説明したうえで本人、家族の意向を確認し医療や他施設と連携して支援している。	事業所では看取りは行っておらず、入居時に退居までの流れを説明し、介護度3になった場合、または自分で立位や入浴、食事が困難になった段階で医療機関や特養施設などの他施設の情報を伝えて入所申込みを勧めている。それまでは可能な限り生活支援を行い、家族には状況の進行状況を説明しながら、意向の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の半数は訓練をしている。 今年度も実施を予定している。 救急要請の手順は各棟の職員の机の近くの壁にかけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和6年の町の防災訓練は台風の接近のため中止となった。出来る限り参加していきたいと考えている。	年2回火災避難訓練を実施している。うち1回は消防署に立会いを依頼している。事業所に防災士の資格を持つ職員が2人おり、防災対策や避難訓練の先頭に立っている。運営推進会議の委員に消防団と自治会の代表が就任していることから、地域の協力を得られるよう、会議の日に合わせて訓練を実施することも検討している。食料、水、灯油ストーブ、発電機などを備蓄している。	運営推進会議には地域の方々が多数参加している。その会議に合わせて訓練を行い、地域の方々の協力体制を築いていくことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや希望、その方の性格なども職員間で話し合い、関わり方にも注意している。	事業所全体でスピーチロックの改善に取り組んでいる。「ちょっと待って」という言葉を「〇分ほど待ってもらえますか」や「〇〇が終わって行くので、待ってください」などに言い換えて対応するようにしている。対応が難しい職員には個別指導を行い、適切な対応を促している。	
----	------	--	---	---	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	電話をかけたい、外に出たい、パーマをかけたい等、本人の希望や思いを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化で起床時間が遅くなったり、水分補給の時間に外のイスに腰かけていた時は本人に確認しながら居室で食事を摂ったり外のイスでお茶を飲んでいただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する化粧水やクリームを購入したり、散髪の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものがありますか、と聞きリクエスト食を時々作っています。 食後茶碗拭き、時々団子づくり等手伝っていただいています。	職員が献立を作成し、ユニットごとに調理している。食材は町内のスーパーなどから購入している。家族、近所の人、運営推進会議委員などから野菜、果物、お菓子など差入れも多くあり、活用している。誕生会などの行事には利用者の希望を聞いて提供している。ラーメンが多い。食器拭きをほぼ全員の利用者が手伝っている。5月には早坂高原の道の駅で約半数の利用者が外食することができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の食事、午前午後の水分補給、状況に応じて水分補給をしている。 食事量、水分量を毎日チェックし、体調に合せている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの身体状況に合わせた声掛けや介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるようになった方には時間を見ながら声掛けをし誘導している。 (日中にオムツをしている人はいない)	排泄チェック表でパターンを把握し、見守りや声掛け、誘導を行い、多くの方がトイレを利用できている。中には、向精神薬の減薬や「おしゃれをしたい」気持ちを生かした介護により、自力でトイレに行き排泄できるようになった利用者もいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、必要な場合は看護師に相談し服薬などでコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日を決め本人の状態に合わせ曜日を変えたり入る順番を聞いたり、入浴剤を使用したり楽しんでもらうようにしている。	入浴は個浴で、1人週2回を基本としているが、利用者の意向を踏まえタイミングに合わせて声掛けしている。入浴中は、リラックスして昔語りや歌を披露したり、楽しいひと時を過ごしてもらっている。必要に応じ入浴剤を使用したり、脱衣場の温度を適温に保つように配慮している。バスタオルをかけるなど羞恥心へ配慮して個人の尊厳を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温に応じて室温調整や部屋の明るさや家具の配置等、本人の希望を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当者を決め、担当者と看護師が中心となり行っている。 各利用者の担当者は服薬状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が日課にしている散歩や洗濯干したたみ、縫物等をしていただき、季節に応じて花見やドライブを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デッキや外に出られ散歩や外気浴に努めている。 月に一度程度の買い物支援を検討している。 行事の中にドライブを取り入れ楽しんでもらえるようにしている。	天気の良い日は、ほぼ全員の利用者が事業所周辺を散歩しており、玄関先にベンチを置き、数人で話をしたりお茶を飲んだりしている。花見で早坂高原の道の駅までドライブに出掛けるなど外出支援をしている。3、4人の利用者は毎月家族に連れられ自宅で外泊している。希望に応じて美容室や自宅へ外出する方もおり、年末には地域の歳末助け合いの催し物を見学する方もいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび しあわせ館(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人より預かり、金庫で保管し本人の希望時に嗜好品や衣服、散髪に使っている。毎月ご家族に領収書と明細残高を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症がゆえ利用者本人が電話したり、手紙を書くなど、難しい面もあるので私たちスタッフが本人から話を聞いて、代わりに電話をかけて会話は出来る限り本人としてもらい、足りないところはスタッフが補足してお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた花をホールに飾ったり、デッキや廊下からも花が見えるように工夫している。ソファでくつろいだり好きな場所でくつろぐことが出来ている。	玄関、事務室を挟んで左右にユニットが分かれ、ホールから全室の出入りが見渡せる配置となっている。各ユニットとも壁の色はクリーム系で落ち着いた雰囲気である。エアコン、加湿器、空調で24時間快適に保たれている。壁面には季節の花や利用者の作品が飾られ、居心地のよい空間となっている。高台のため雄大な自然が眺望できる恵まれた環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いて、一人や数人で話したりお茶を飲んだりしている。一人になりたい時には居室に戻り思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置の希望を聞き、安全に配慮しながら支援している。一人ひとり、家族の写真を飾ったりテレビを置いている。空調も快適に過ごせるよう努めている。	居室にはベッドとチェストが備え付けられ、エアコンや加湿器、24時間換気装置により、適温、快適に保たれている。利用者はテレビや家族写真などを持ち込んでおり、ベッドやチェストの位置などは、本人の希望を聞いて配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは声掛けをして利用者にやらしてもらい、朝の身支度などはやらしてもらってます。心身の状態を考えながら、トイレの近くの居室にしたり動線を考え安全に移動できるよう工夫している。		